

平成30年度 第1回 定例会 まとめ

部会	報告及び議題(概要)	意見交換	今後の方向性
就労支援	<p>*就労トレーニングや就労後の支援の必要性(就労を継続していく為の) *トラブルへの対処、支援のあり方などへの研修の必要性</p>	<p>※グループにて協議 テーマ「地域での障がい理解を進めるには？」 ～それぞれの立場でどう取り組みがあればよいか～</p> <p>～理解が広がらない原因～ ・アルコール依存症の方の場合、理解が得られにくい。 ・家族や行政、福祉職の人たちなど、まずは直接関わっている人たちにしっかりと理解してもらうことが大切。(そこから、地域理解に拡大出来たら) ・障害を表に出したくない方もいて、それも、理解を広げる妨げの一つになっているのではと考えられる。 ・職員として障がい者雇用などを検討する場合も、クローズにしていると、支援が入りにくい部分もある。 ・身近に障がいと向き合う状況がない方は、無関心だったり、必要性を感じていない状況がある。(だれでも障がいを持つ可能性があるということを理解してもらう事が大切。)</p>	
相談支援	<p>*制度改正への対応として、毎回行政も参加し、説明や質疑応答を重ね、情報共有及び共通認識を持つための取り組みを重ねている。 *互いに知恵や工夫を出し合い、他機関との連携や成功事例などを共有。全体のスキルアップのための取り組みを行っている。 *今年度から隔月で事例検討会も開催している。</p>	<p>・福祉職として理解しなければならないと思うが、家族や子どもの親として、身近な障がいと向き合う際には、躊躇してしまうことも考えられる。 ・世間の事件報道などの影響から、障がいに対してマイナスイメージがついてしまっている。 ・障がいのマイナスイメージのみが伝わってしまうことが多い。(〇〇できない。〇〇が苦手 等) ・同じ障がいでも、特性や対応など違いがあり、対応に苦慮する事が多い。 ・介護事業所の職員からも、不安な気持ちを聞かれることも多い。基本的な情報は提供して支援に入ってもらいが、実際の関わりなど、知らない事から来る不安の気持ちが大い。 ・「プライバシー」への配慮は大切だが、必要な情報に過度に配慮すぎて、連携が上手くいかないこともある。 ・行政の他部署からの意見に障がいに対して無関心な意見が聞かれることもあり、福祉と直接関係ない部署の職員にも障害について啓発が必要な状況がある。</p>	<p>※今回、グループワークで出された意見を基に、次回の定例会で深められるように、協議会として障がい理解のためにできることを事務局・運営委員会にて、検討していく。</p>
精神	<p>*精神障がいの理解について(理解が進んでいない現状) *当事者や家族の声をしっかりと拾うことが必要との意見がでている。(部会として取り組みを協議中)</p>	<p>・研修で、本人たちの苦悩や不安を伝えようとしたところ、ショッキングな事例だけが印象に残ってしまい、伝えなかったことと逆の印象が伝わってしまう怖さもある。 ・発達障がいなど外見からは気づきにくい障がいについて、実は、本人や家族が一番障がいの事を怖くも思っているのではないかと(障がいにより一生向き合っていく)なければならないという不安や怖さに縛られてしまう、家族への支援も大切。) ・目に見えない障害に対して伝わりにくさがある。(どのようにして理解してもらうか) ・乳幼児期の支援は充実してきているが、小、中学校の子どもたちへの支援がもっと必要と感じている。</p> <p>～実際に取り組まれている事例～ ・学校教育現場では、支援学級を開設するにあたって、学校長から、子ども達や保護者会へ説明して理解を促してから、設置するなどの取組を行っている。 ・最近の教育現場では「それぞれのいいところを認め合う」という方向性で取り組んでいる。それが実を結ぶことで、「違いを認め合いながら助け合う社会」になっていくのではないかと。 ・学校では、クラス内に障がいに関する本などを置き、自然と子ども達になじみやすいような環境を整えている。 ・瀬戸内町の取り組んでいる「我がごと丸ごと」の視点は大切。 ・実際に地域行事やボランティア活動など、地域に出向いて行く事で、10年程のスパンを掛けて徐々に地域理解を広げてきた施設もある。(普段から地域住民との交流を図ることが大切。)</p>	<p>◎HPに掲載してあるサービス情報シートを近日中に更新予定</p> <p>◎バリアフリーウォッチングを、随時実施していく。</p> <p>◎地域生活部会では構成メンバーは限定することなく、必要と思われる関係機関へ働きかけを行い、地域で暮らすことについての支援体制、必要な資源の整備、支援の質の向上に資する協議を行っている。</p> <p>◎子ども部会では、児童管情報交換会や運営委員会で、学校と福祉の連携の為にシステム作りを検討していくとともに、各地域で部会を実施。地域の意見や要望を反映させるための取り組みを行う。</p>
子ども	<p>*教育と福祉の連携をより具体的に進めていく為の取組を検討している。 *より部会の活動を活性化するため、コメントで運営等も検討したいと考え、部会構成委員を決定(5名)</p>	<p>～障がい理解を広げるためにどうすれば良いか～ ・必然性を持ってもらうことが大切。最近、災害時に困っているケースが全国的に多くあり、災害時どこに支援の必要があり、支援できる場所を結びつけておくことで、理解を広げる事にも繋がるのでは。 ・出前講座など地域の民生委員や学校、集落会など小規模の団体に対して、理解を広げられるような地道な活動も大切。(「知りたい」と来る人を待つだけでなく、アウトリーチで、出向いて行って、啓発する。) ・介護事業所の職員などへも、施設見学などを促し、実際の日常場面を見てもらうことで、安心感に繋げられる。 ・地域に参加しようとしたとき、地域のキーマンと繋がり(民生委員など)、まずはその方に特性を理解して頂き、気にかけてもらえる様に働きかけては。 ・子どもが理解することで、過度に怖がったり、刺激する場面を減らすことも大切。 ・新しい取り組みも必要だが、既存のものをどう生かすかという発想も大切。 ・障がいがあっても、「こんなことができる」「地域で活躍している」などポジティブな情報を伝えることも大切。 ・当事者も、いろんな場面に参加する前に必要なことを事前に自ら確認することも大切。 ・地域生活の中で支える仕組みを検討する際、障がいをオープンにすることでより多くの協力が得られるのでは。 ・社協の金銭管理の活用や、保護費の家賃分を大家に直接支払えるような仕組みを作ってはと考える。 ・グレーゾーンの方たちのサポートや理解を広げることも大切。 ・パンフレットなどを利用して分かりやすく興味を引くような取組を検討しては。 ・地域格差を解消出来る様に、制度など検討していく必要がある。</p>	<p>◎障がいに対する地域の理解や、関係する人々への普及啓発のための研修なども検討していく。</p>
地域生活	<p>*今年度より以前のサビ管部会を改編し実施。 *医療機関地域連携室、不動産関係者等も交え開催。 *障がいを持つ方たちが、安心して地域で暮らしていく為の、支援体制作り、理解の拡大につとめていく。</p>		